

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900067		
法人名	株式会社 モデンナ・ケアサービス		
事業所名	グループホーム 香取の杜 中々		
所在地	千葉県香取市小見川5598-1		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令和5年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービス・ショートステイを併設している複合福祉施設であり、各利用者様との交流や地域行事を積極的に取り入れ、入居者様が地域から孤立しないよう支援をしている。新型コロナウイルス感染予防対策として、様々な地域行事が中止になっており、外出行事も自粛しているため、施設内行事を充実させ、活動的に過ごせるよう取り組んでいる。また、日常的な家事へは、その方の趣味嗜好を考慮しながら役割を持って頂き、積極的に参加できるよう工夫をしている。それらの活動を写真に添えて定期的にご家族へ送り、元気な姿を見ていただいたり、時々電話で会話をさせていただき、交流を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム香取の杜中々」はデイサービスとショートステイが併設された和を基調とした平屋建ての施設である。併設施設とは、日頃からレクリエーション等を合同で行っており、入居者の生活の活性化を図っている。また、看護師の協力が得られていると共に、機械浴槽設備の使用も可能となっており、入居者のニーズに合わせた支援が可能となっている。医療支援については、職員による通院同行、内科医による往診、訪問歯科が実施されていると共に、柔道整復師によるマッサージやリハビリ体操・アロマテラピーが行われており、入居者の健康や身体機能の維持・向上が図られている。外出支援については、散歩や買い物・ドライブ等は実施しているが、現在コロナ禍の為、外出行事は見合わせている。その為、併設施設との交流や施設内行事・レクリエーション等の充実により、入居者の生活の楽しみを支援

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者独自のものを構築している。また、カンファレンス等で共有化している。	「家庭的な環境の下で日常生活の介助を通じて安心と安心と尊厳のある生活を営むことを支援します。」という施設理念を掲げており、施設内に掲示することにより、入居者・家族・職員・外部の方々へ周知している。また、カンファレンス等を通して随時理念を確認し、全職員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の人の出入りは多く、交流の機会が必然的に出来ていた。コロナ禍のため地域行事やボランティアによる余興は中止。地域の区長を介しての情報共有は実施している。	日頃の挨拶や自治会の加入により、地域との繋がりを大切にしている。また、地域の区長を通して相互の情報交換等を行っている。現在コロナ禍の為、地域行事の参加や実習生・ボランティアの受け入れ等は見合わせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	香取市地域密着型サービス連絡会の一員であり認知症相談窓口として地域住民に開放している。キャラバンメイトの活動も行い、毎月数件の相談があり支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催を実施している。新型コロナウイルスの対策として書面での報告が続いているが、毎回電話連絡をしたり、訪問をしながら意見交換を実施するようにしている。	運営推進会議は市職員・民生委員・区長・家族・職員等が出席し、年6回開催されている。会議では施設の活動報告や意見・情報交換等を行い、施設の運営向上に繋げている。また、身体拘束廃止委員会も同時に開催している。現在コロナ禍の為、会議は書面で行っており、構成員に資料を配布し、意見等を確認している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	香取市が関わるサービス連絡会、ネットワーク会議、交流会の開催時は積極的に参加している。中止やコロナ禍での参加不可時は、各担当者と連絡を取り合い情報共有を図っている。	市とは日頃から業務全般における相談や情報交換を行うと共に、運営推進会議を通して連携を図り、サービスや運営の向上に活かしている。また、香取市ネットワーク会議にZOOMで参加しており、市と意見や情報交換を行っている。その他、市主催の認知症講演会等にも参加している。	

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を整備し施設内に掲示。廃止委員会を設置し運営推進会議にて委員会を開催。家族の理解も得られ見守りを心がけ自由に行動が出来るよう支援している。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備し、施設内に掲示すると共に、内部・外部の研修も実施されており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、身体拘束廃止に関する指針を整備していると共に、身体拘束廃止委員会を運営推進会議の際に開催しており、身体拘束の無い支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社理念に定められており、各職員の名札の裏に印刷し携帯。いつでも確認ができ、日頃から職員相互で注意を払い防止している。今までは千葉県の研修を受けた者が勉強会を開催していたがコロナ禍のためケアカンファレンス等を通じて指導をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の社会福祉協議会や地域包括支援センター、行政との良好な関係を築いている。現在、1名の入居者様が利用をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人と家族に対し十分に説明を行い、ご理解と納得をしていただいた後、入居していただいている。時には本人と馴染みのある方にも必要に応じて参加いただき不安のないよう配慮し時間をかけて説明を実施。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会や運営推進会議等を活用し意見交換を実施している。コロナ禍のため定期的に電話をしたり、近隣の方には訪問をしている。毎月写真入りのベストスマイルお便りを送付し関係性を構築している。	家族の来所時や電話連絡・運営推進会議を活用して、意見や要望を確認している。挙げた意見・要望においては、会議や申し送り周知・検討を図り、適切な改善に向け取り組んでいる。日々の生活を写真に綴った「ベストスマイル」を毎月家族に送付しており、施設での生活や活動状況を伝えている。	

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員は必要に応じて管理者等に都度相談をしている。挙げた意見や情報等は申し送りノートを活用し共有を図りケアに反映している。	ケアカンファレンスを通して、利用者の支援に関することも含め、職員の意見・要望等を確認している。また、ケアカンファレンス開催前に、書面にて全職員の意見を確認しており、支援や運営に反映させている。研修の実施や業務マニュアルの整備により、サービス向上に向けた人材育成にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の代表者は管理者・各職員の努力や実績勤務状況を把握するため人事考課や面接を実施。個々の努力により年2回の正社員登用制度がある。また、事業全体の実績により賞与・手当等で還元している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今まで施設内での年間勉強会予定を組み実施したり、外部研修も積極的に参加出来るよう調整をしている。コロナ禍となり中止になっているが資格所得や研修参加の勤務調整を実施。交通費等の費用を支給。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のサービス連絡会やネットワーク会議等、様々な会に加入しており同業者間での交流を積極的に図っている。実習生も積極的に受け入れ指導する事で一緒に学びケアの向上を図っている。コロナ禍で中止もあり。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と十分に話し合い又は状況に応じて家族や前任ケアマネ、民生委員等関わりのある方々との面談を実施し情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に丁寧に説明を行い疑問や不安を傾聴し十分に話し合いを実施。必要時には受診の際に同行し担当医からの意見も聞くようにしている。サービス開始時も面会や電話で交流を図っている。		

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人からの要望や家族、前任のケアマネからの情報も把握し、生活歴や趣味嗜好等を傾聴し計画作成を実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者個々の嗜好や特技に合せた役割を持って頂き一緒に行っている。家事の役割分担や家庭菜園、花の手入れなど役割分担が自然に行えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や買い物の同行、面会など協力が得られている。一時帰宅の送迎支援を行い、自宅で家族と過ごす時間を設けているがコロナ禍で中止中。毎月写真入りの便りを郵送し日々の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの主治医への受診支援を実施。友人や知人の面会も実施しているがコロナ禍で家族以外の面会は中止中。併設のデイとショート利用者との交流は実施しており、特にデイのレクには定期的に参加している。	家族等との面会や電話、受診同行の機会を活用して、相互の絆を大切にしている。また、地域の商店への買い物やドライブ、併設のデイサービス利用者との交流等を通して、馴染みの場所や人との関係も大切にしている。現在コロナ禍の為、家族等との面会はアクリル板越しで対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの配席の工夫や会話の橋渡し等の支援を実施。行事への参加時は相性をふまえてグループ分けをし、その都度工夫をしながら支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への移動や入院し退居された後も情報共有や送迎支援を実施。家族や入院先の相談員とも定期的に連絡を取り必要に応じて支援を実施している。		

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者に担当職員を決め寄り添ったケアを実施する事で本人の想いをより多く早く傾聴できるよう支援を実施。状況によって担当者を変更。カンファや申し送りノートを活用し情報共有を図り支援を検討しながら実施。	入所前に、本人や家族から意向・生活歴・身体状況の確認を行っている。また、必要に応じて医療機関や他の介護サービス事業所から情報提供を受け、情報や支援方法の把握に努めている。入居後は日々の生活観察や会話の中から意向を汲み取り、詳細に記録している。定期的にケアカンファレンスを開催し、入居者一人ひとりの視点に立った支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族だけでなく前任のケアマネや関わりのある人と面談を実施。長年の日課は入居後も継続できるよう状況に応じて実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定は毎日同じ時間帯に実施。表情や身体状況、排泄や食事摂取量は毎回記録。状態が安定しない方については併設のナースによる協力体制を実施。本人のペースに合せた日常生活が送れるよう支援		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に会議(カンファ等)を実施し検討しながら作成。コロナ禍でカンファの中止により各担当者等と意見交換をし、状況に応じて担当医からの意見・情報も得るようにしている。	本人・家族の意向を踏まえて、全職員及び担当医と意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に目標達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを実施し、現状に即した介護計画の作成に努めている。また、介護計画の見直しについては、日々の記録や気づきを大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に様子や気づき、実践を記入。毎月のカンファ時等に担当者が日頃の様子や実践・結果、気づきを作成し職員間で共有し検討を行っている。		

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	下肢筋力低下予防やリラックスをして頂くため柔道整復師によるマッサージサービスとリハビリ機能訓練を実施。また移動美容室による整髪を行い、その人らしさの身だしなみを支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や社会福祉協議会等の主催会議や交流会に参加し新たな社会資源情報を得るよう努めている。入居前の個々の情報を元に本人と地域の関係性を把握し支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時や状況に応じてかかりつけ医の希望を確認し職員が付き添い受診支援を実施。定期的に嘱託医の往診支援、歯科医院の受診を実施。併設施設のナースとの連携もあり緊急時の対応も可能。	協力病院の他、希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、必要に応じて職員が通院の付き添い支援を行っている。定期的に内科医による往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。また、必要に応じて訪問歯科も行っている。その他、併設施設の看護師による健康管理・服薬管理・医療面における相談や対応等も行っている。週2回、柔道整復師によるマッサージやリハビリ体操・アロマセラピーが行われており、入居者の身体機能の維持及び向上に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録やチェック表を活用し状況に応じて併設事業所のナースと連携をしオンコール体制をとっている。ナースは近隣に住んでおり夜間も対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に地域連携シートを作成し情報を提供。入院中も定期的に面会をし状態の確認、病院との連携を実施。連携室担当者と常に連絡を取り合い情報の共有を実施。入院に備えて定期受診の同行支援を行い緊急時の受け入れ体制の協力を得ている。		

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期及び重度化における施設方針を説明し延命処置の同意書を交わしている。入居後も毎年実施。状況に応じて家族の意向を確認しながら担当医の意見を元に職員間で検討、支援を実施している。	重度化・終末期においては、施設指針・同意書を作成し、入居者・家族へ説明し同意を得ている。また、延命処置の希望の確認については、毎年行っている。重度化・終末期においては、全職員が入居者・家族の意向を確認しながら、安心して納得の得られる支援方法の検討・統一に取り組んでおり、支援が必要になった場合は、医師と24時間体制で連携を図り、家族の意向や状況の変化に応じた支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の勉強会を毎年計画を立て実施。コロナ禍で中止中のため、看護師の指導の下その都度実践している。看護師、管理者、嘱託医のオンコール体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災、水害を想定した訓練を毎年実施。(コロナ禍で中止もあり)地域の区長や民生委員との連携を図り地域の区民センターが一時避難所として開放して頂けるよう体制が整っている。地域住民の協力体制も可能。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報装置等の消防設備を設置していると共に、災害時に備え、備蓄品も確保している。消防避難訓練を年に2回実施しており、日中や夜間を想定した訓練や消火器・通報訓練等を実施しており、災害時の対応を身に付けている。また、避難所の確保を含めた災害時における地域との協力体制も構築している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、プライバシーマニュアルを整備し毎年研修を実施。コロナ禍中は常に閲覧できる場所に設置。声かけのタイミング等について情報共有し実施。個人情報の保護に関しての同意書を交わしている。	プライバシー・接遇マニュアル等を整備していると共に、研修や会議を通じて全職員に周知している。理念に「尊厳」・施設目標に「言葉使い」を掲げており、職員間で相互に意識しながら、理念・目標に基づいた支援の実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側の都合で物事を決めず、ご本人が自己決定出来るよう配慮。時間がかかっても見守り支援を実施。		

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れは決まっているが、その都度臨機応変にご本人に確認しながら支援をしている。レクや家事は参加型。食事時間も希望により変更が可能。希望時にはマンツーマンで買い物支援を実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月移動美容室の利用が可能。整髪や服装の乱れは都度声かけし支援。更衣時の服装選びは自身で決められるよう支援し、衣替えの整理や買い物も一緒に実施。時には家族も一緒に参加されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の栄養士が献立を作成し調理員が調理を担当。準備や盛り付け、配膳、片付けは入居者様と一緒に共同で行っている。また、家庭菜園で様々な野菜を収穫し、献立を決め一緒に調理も行っている。	食事の献立は併設施設の栄養士が作成し、専属調理職員が調理しており、栄養バランス・嚥下機能等に配慮した食事提供がなされている。食事の準備・配膳・片付け等は可能な限り、入居者と一緒に行っている。定期的に行事食を提供していると共に、お好みメニューや手作りおやつを提供する等、入居者の食の楽しみを支援している。また、施設の畑で収穫した野菜を活用する等、利用者の食への関心を促している。その他、新米を食べる会や流しそうめん等も実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスのとれた献立であり、食事・水分の摂取量を毎回記録把握し、不足の場合は本人の好む食材を提供。定期的におやつ作り等を実施し楽しみのある食事提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの誘導と介助を実施し記録している。食事前には口腔体操をし嚥下機能の低下予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握。声かけのタイミングや誘導、介助を実施。施設全体としてオムツO作戦を実施。	排泄チェックリストを活用しながら、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めると共に、適切な声掛け・トイレ誘導を行う等、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、乳製品の提供や腹部マッサージ、医師や併設施設の看護師との連携により、入居者の便秘解消に努めている。	

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し乳製品の提供、腹部マッサージ、自然排便を促すよう支援。また、併設のナースと協力体制を実施し浣腸等を実施。嘱託医による処方薬の服用を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節感を味わう菖蒲湯やゆず湯等を実施。また、リラックス効果のため音楽や入浴剤を使用。施設内の大浴場を時々利用し、気分転換と友人との交流支援を行っている。入浴時間帯は本人に確認しながら実施。	入浴については、入居者の希望や体調に応じて、柔軟に対応している。併設施設には機械浴槽が設置されており、身体状況に応じた入浴支援も可能となっている。また、入浴剤の使用や菖蒲湯・柚子湯等の実施により、入浴の楽しさを支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や希望に応じて午睡時間や休息時間を確保。個々の生活リズムに応じて食事時間をずらすなど起床・就寝時間のケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説を常に確認出来るようファイルし、全職員が服薬状況を把握し薬の変更については申し送りノートを活用し情報共有を実施。特変時は併設のナースが対応可。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好や特技に合せた役割分担が自然と出来ている。家庭菜園での収穫、花壇の花の成長を楽しみ、時にはデイでのレクにも参加しコミュニケーションを図りながら楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物は日常的に実施し昔なじみの地域行事にも積極的に参加。また、家族の協力を得て一時帰宅を実施(送迎支援有)他に帰結に応じた外出行事を企画し実施。(コロナ禍中は自粛又は中止)	日頃から、散歩や買い物・ドライブ等を実施しており、戸外での楽しさを支援している。現在コロナ禍の為、外出行事は見合わせているが、併設施設との交流、施設内行事やレクリエーションの充実により、入居者の生活の活性化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物への同行支援を行い、支払いはご自身で出来るよう支援を実施している。		

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍のため定期的にご家族や友人への電話を支援。誕生日やお祝い等の贈り物があつた際は必ず電話やお手紙で御礼がご自身の言葉で出来るよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は和を基調とした平屋のバリアフリー。窓が多く広がりのある空間が有り常に陽がさすよう設計されている。共有スペースには自由にくつろげるようイスやソファがあり冬にはこたつを設置。自由に移動が出来るよう支援をしている。	施設内はバリアフリー環境が整っており、入居者の安全面に配慮した設計となっている。施設の共有スペースには、椅子・テーブル・ベンチ等が設置されており、自由にくつろげる環境整備がなされている。また、施設内には、季節の飾り付け・入居者の作品や写真等が掲載されており、楽しい雰囲気作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを中心にソファを設置し談話が出来るよう支援。少人数でゆったりと出来るようイス等を設置し自由に動けるようになっている。一人を好む方用のテレビやスペースも確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳の和室。ご本人が自宅で使用していた馴染みの家具の持ち込み使用も可能。独立のエアコンが設置され好みの空調管理が行える。	全居室が畳敷となっており、入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具や写真等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が出来るよう配慮されている。また、居室を自由にアレンジする事も可能となっており、生活スタイルに合わせた一人ひとりの個性が表れた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に動けるよう自身の写真入りのプレートが居室前に飾られている。廊下は全てに手すりがあり自由に散歩が出来ドアは横開きで車椅子でも活動しやすく床は衝撃吸収性の素材を使用。安全面に配慮している。		